# 第4回女性スポーツ京都会議報告

8月30日、第4回女性スポーツ京都会議（京都新聞社主催、株・ファンケル化粧品協賛）が京都市の京都商工会議所大ホールで開催されました。今回のテーマは、「輝く女性の汗――生涯スポーツ実践への道――」という、現在、中高年スポーツ愛好者にとって非常に関心の高い問題でした。WSFジャパンでは、この会議に、昭和62年の第1回から協力しています。今ではスポーツ愛好者や、一般市民の間にも定着し、京都で行われる有名な会議のうちの一つに成長しています。

当日は、台風接近による大雨にもかかわらず、20代から70代まで幅広い年代の女性が参加し、午後のひととき、それぞれの演者の話を熱心に聞きながら、生涯スポーツに理解を深めました。

今回は基調講演に、海外からは初のゲストとして韓国女子体育学会会長の韓良順さんを迎え、ソウル五輪と韓国の女性スポーツの現状について、講演がありました。（詳細は次頁を参照）

元五輪バレーボール選手、生沼スミエさんの特別講演、『挑戦への証（あかし）』は、講演の名調子もさることながら、「苦しい壁も、周囲の人々の助けで乗り越えられた。自分自身が楽しくスポーツを続けるには、周囲の人々を大切にすること」と語りかける自らの体験談のもつ迫力に、会場は深い感動に包まれました。

続いてのパネルディスカッションは、『生涯スポーツ・女性（母親）の役割――子供に、親に、地域に――』というテーマで、WSFジャパンの三ツ谷洋子代表を司会役に、遠藤保子・京都教育大助教授、沢松順子・テニス元全日本チャンピオン、小倉美津子・仏教大助教授、荻野康子・京都府家庭婦人バドミントン連盟副理事長のみなさん、それに生沼さんがパネリストになって進められました。

まずテニス一家の沢松さんが、ファミリースポーツの楽しさを披露。全国でバレーボール普及を進める生沼さんは、元気な60歳、70歳プレーヤーの生涯スポーツを紹介しました。

地元、京都で教鞭をとっている小倉助教授、遠藤助教授は、京都のスポーツ環境の遅れや、その地域に合った楽しみ方の工夫も必要と指摘、荻野さんも、家庭の中で、主婦、母がスポーツで輝いていることは素晴らしいこと、と訴えました。

最後に、「スポーツを楽しむためには、お互いにほめ合うことが大切」という生沼さんの言葉が、これからの女性スポーツの広がりにつながる大事なポイントとなるように感じました。

今回も会場の皆さんにアンケートをお願いしました。（総回答数149＝全て女性）その集計結果の中からいくつかをご報告します。多くの方が会議に満足され、色々なことを感じて下さったようです。

**◆今回の会議はいかがでしたか**

| | |
|---|---|
| ・とてもよかった | 65% |
| ・まあまあだった | 8% |
| ・ものたりなかった | 2% |
| ・無回答 | 25% |

**◆会議に参加しての感想・意見**

・老化防止のためにもスポーツは必要だと感じた
・スポーツを通じて、色々な人と出会え、ストレスの解消もできる
・公の施設を増やし、市民がもっと安く、頻繁に利用できるようにしてほしい
・まわりの目が、出歩くことに批判的である。女性同士の理解も、まだまだ十分ではない
・良き指導者が不足している。指導者養成にも力を入れるべきである
・韓良順氏の話から、オリンピック等の舞台裏の苦労がわかった。また、スポーツを楽しんで、長い間続けることの大切さも教えられた

**◆今後、会議に希望されるテーマは何ですか（複数回答を含む）**

| | |
|---|---|
| ・女性のからだとスポーツ | 71 |
| ・有名選手の体験談 | 65 |
| ・スポーツ組織の運営方法 | 52 |
| ・諸外国の女性スポーツ事情 | 26 |
| ・男性側から見た女性スポーツ | 11 |
| ・その他 | 1 |

## 韓国の女性スポーツとソウル五輪

韓　良順さん（韓国女子体育学会会長）

# 記録より自己表現の場

昨年のソウル五輪は、さまざまな困難が予想されたにもかかわらず、十二年ぶりに東西両陣営の国々が一堂に会する平和と友情の場になった。近代オリンピックの精神を取り戻したという意味で、素晴らしい大会だった。また、韓国の女性は四つの金メダルを獲得、男性を上回る成果を上げた。

この強さの秘密は、わが国女性スポーツの歴史とかかわる。女性は長い間、儒教の封建的な価値観の中で家庭に拘束され続けてきた。それが一九二〇年以降、人間としての自覚に目覚めるとともにスポーツに参加したのは、大変な勇気と決意を要する意義ある行動だったわけだ。その後、体育専門の教育機関も一九四五年に誕生。四八年のロンドン・オリンピックに一人の陸上選手を送って国際舞台に登場。以来、歴史が浅いにもかかわらず、数多くのスタープレーヤーを生んでいる。

今、スポーツをすることで男女の差はない。また、国力強化や健康増進のため、といった「手段」ではなく「目的」そのものであり、今後、会暇が増えるに従い、この傾向は強まるだろう。しかし、一方では勝利、記録第一主義に陥り、不正や薬物使用などの心配な問題も生じている。

このような現状から、スポーツをもっと純粋に楽しむものに変えていこうとする動きがある。その主張は、結果よりも過程を大切にする。男子独占ではなく男女一緒に参加する。記録にこだわらない。つまり、権威主義的な活動ではなく自発性と自己表現の機会としてのスポーツというわけ。「すべてのためのスポーツ（Sport For All）」といえるだろう。現代社会が要求するスポーツの真の姿は、このような考え方によってスポーツを生活化することだと思う。

ソウル五輪後、わが国スポーツ界でも新たな歴史が始まった。エリート育成中心から、すべてのためのスポーツを求める声が高まり、各地の体育施設づくりや健全生涯課の新設などで、さまざまな福祉体育政策に結びついている。私たちスポーツ人が民間の社会体育団体として設立した「社会体育センター」は、女性も子供もふくめたさまざまな人たちがスポーツに参加する場だが、最近では、個人や企業が設立に関心を持ち始めた。それによって将来、社会体育施設が各地に増え、根を下ろせば、女性が男性並にスポーツに参加するチャンスを得るのはもちろん、過去に功績をあげた選手も、さらに地域社会に奉仕できるようになるだろう。

（一九八九年八月三日付京都新聞より転載）

技術と実績。信頼されるコートづくり。

●パーフェクトコート
アクリル系サーフェースの経済的なコートです。現在最も普及しています。

●ハイクッションコート
ウレタン系の弾性に富む高級コートです。透水型と非透水型があります。

●パーフェクトクレイ
雨にも強く…、霜にも強い…、維持管理の楽な準全天候型クレイコートです。

企画・設計・施工　日本鋪道株式会社

本社：平104東京都中央区京橋1-19-11 ☎(03)563-6711

北海道支店☎(011)842-8866　東北支店☎(022)262-1516　関東第1支店☎(03)471-8371　関東第2支店☎(03)837-0452　北信越支店☎(025)244-9186
中部支店☎(052)211-6581　関西支店☎(06)942-6123　四国支店☎(0878)62-3157　中国支店☎(082)246-8322　九州支店☎(092)771-0266